

お隣のからつはビッドから2Mまでが178メートルもありコースの入れ替わりが多いが、大村はビッドから2Mまでは80メートル。距離が短いために、極端にビッド離れで差が出ない限り枠なり進入になることが多い。水質は海水で淡水場と比べると柔らかい。干満の差もあり、干潮時は水面のぼちぼちもななく高速バトルが繰り広げられるが、満潮時は1マーク付近に微妙なうねりが入ってくるために一変して乗りづらくなる。舟をばたつかせたり旋回後の立ち上がりで態勢を崩して振り込んだり、また転覆してしまふシーンも少なくない。舟券を推理する際には、干潮と満潮の時間帯をしっかりと頭に入れておきたい。

コース	1着	2着	3着	4着	5着	6着
1コース	53.3%	16.6%	8.5%	8.9%	7.1%	5.9%
2コース	15.7%	25.6%	18.7%	15.3%	12.4%	12.2%
3コース	11.8%	20.6%	20.5%	18.5%	17.1%	11.3%
4コース	11.7%	19.4%	19.8%	20.3%	15.6%	13.2%
5コース	6.6%	12.4%	19.8%	18.7%	23.8%	18.8%
6コース	2.0%	6.6%	14.0%	19.6%	24.4%	33.4%

11月から温水パイプ装着。その影響は？

レースパターンに大きな変化は出てこないと思われるが、影響が出るものならエンジン相場か。これまでは乗り手を問わず噴きまくっていたものが走るにつれて目立たなくなったり、逆のパターンでは常に下位の動きだったものがパイプ装着を機に上位機に駆け上ることはある。また行き足が鈍くなることでFが減少することも考えられる。大村は7月中旬のスポーツ報知杯から10月中旬まで10節連続でFが発生していた。優勝戦の1、2号艇の勇み足で大返還したシリーズさえも…。チャレンジは無事故で終わることを祈ろう。

大村は、さらにインの強さが増している感じだ。1コースに続いては15.7%の2コースが続くが、今年に入り3コース(11.8%)の数字が落ちて4コース(11.7%)とほぼ同等となっている。

をしたとしても3、4コースに構える選手に自在にさばられるケース。また3連単で3けた配当がポンポン飛び出すほど本命番組が多いのも大村ならではだが、1号艇選手の2着付けは妙味。2連単でも20000〜30000円台の高配当となり「買ったのに」と嘆くのは後の祭り。でガックリ肩を落とすことは数知れず。やはり大村は、シード番組

的なレースで1号艇選手の動きが軽快な場合はむやみに穴を狙わず本命サイドで勝負に出るべき。人気を背負った選手の舟足が怪しい場合や、いかにも中へこみになりそうな場合は、2、3着付けが得策。カマンのセット舟券を狙う場合は、起点となる選手の伸びがケタ違いの場合のみに限る。

”インの大村”はもはや不変！ 舟券的な妙味なら1号艇の2着ツケ？

導入からほぼ9ヶ月が経つ現モーターの相対的な特徴は、手が付けられないほど噴くオバケ的なものはないものの「しぐ」というレベルではない」と引いた選手が大苦戦するものが多いこと。上位と中堅上位クラスとの差に開きは少ないが、上位と下位では勝負にならないほどの差がある。もっともチャレンジカップには上位機から出されるため、1スト級は出ないとされるが、もしも出された場合は、近況ペラが絶好調の選手でも予選落ちの可能性が高くなりそう。また、SGの2節前の企業杯から温水パイプが装着されるため、相場に微妙な変化が出てくるかもしれないことは頭の片隅に入れておきたい。

63、52、53号機が強力トリオ 凡機を引いた選手は切り？

エース級!

番号	2連対率	1着	2着	優出	優勝	備考
37	47.5	41	25	4	0	周年で横西奏恵がトップ級に仕上げるなど、スリット付近が強力
52	43.2	41	19	4	2	初下ろしの長谷巖を始め安定した動きで、バランスの良さ際立つ
53	50.7	42	32	4	2	勝率・複勝率ともナンバーワン。グリップ感だけでなく伸びも来る
63	49.0	38	33	5	0	伸び型に仕上がる事が多いが、手前の足が良く実戦でも威力発揮

注目機!

番号	2連対率	1着	2着	優出	優勝	備考
13	47.4	34	39	4	2	ターン回りが良く競り合いにも対応できる
15	35.3	26	22	5	0	乗り手を問わず上位級に仕上がる事多い
26	38.7	29	26	2	0	調整の幅が広いのが特徴か。伸びも力強い
30	26.1	18	19	1	0	藤崎小百合が初V飾る。ローの足の良さ光る
36	39.9	32	23	4	2	優勝こそないものの直線も良くパンチ力あり
43	36.2	24	26	3	0	優出回数や勝率は目立たないが爆発力ある
44	35.9	27	20	5	0	5点合こそこのモーターだが合えば上位に
46	35.8	18	26	2	0	数字は低いものの、伸びが来るだけに注目機
51	43.4	33	29	3	2	B級使用も多く着はまとまらないが軽快さある
60	40.6	26	30	2	0	優出回数は少ないが、これまで評価に△はなし
66	41.1	35	25	4	1	Vはないが優出回数は多い。近況の動きもいい
75	29.7	18	25	1	0	下降気味だが節一に仕上がる事数度あり

りが早い。長谷川はあまりの出方に「モーターのどこがおかしいのでは」と思うほど」と目を丸くしていた。その後、5月の一般戦の初日2Rで、有賀達也が向かい風8mの荒天の中でまくり差しを決め、当地最高配当3連単42万8120円を提供。完全優勝に突っ走っていた吉川元浩は準優でFに散るも、優勝は白石健と山本英志が飾っている。

53号は8月に富永正人と山口裕二がV。さかのばれば5月の周年で濱村芳宏が乗りつらさの解消に時間を費やしたが、特訓でも出ていき加減だし、レースでも行き足を中心に軽快な動きを見せていた。中間速がしっかりとおり、たとえラップになっても優位に立てそう。

63号は横西奏恵が周年でゲットし、選手間でも評判の動き。横西自身も「外のコースでも構わない」と言うほど動いていた。その後も香月大介や小松卓司がトップクラスに仕上げ、完全Vこそ逃したが8月のオーラル女子戦では山川美由紀がヒラツシユの大活躍だった。同機はB級選手が使用した回数が多いものの、レース別の展示タイムでは1位の回数

がややリードしているか。東健介と枝尾賢がV決めた36号も注目機。調整の幅が広く早めに仕上がるので選手はレースに集中することが出来る。10月中旬の枝尾は「モーターは文句なし」と全幅の信頼を寄せていた。13号は秋山直之(優勝)が10月上旬の一般戦で韋駄天ぶりを発揮。準優勝のレースで1分45秒6をたたき出し現在のペラ基準における当地のコースレコードを更新すれば、準優では45秒5をマーク。多少ペラの調子が悪い選手でも出るだけに底力を感じる。

30号は勝率や2連対率こそ平凡だが伸び型に仕上がる事が多い。スロークからの起しも問題なく、1マークで余裕を持った攻めが出来るのはなにより。インが有利な大村だが、伸び型ペラを持ったスタート巧者をパートナーにすれば、豪快なまくりを決めるシーンが見られるかも。ほかでは重量級の矢橋成介が軽快さを感じていた46号は機歴以上で、44、75、43あたりも安定した着取りを見せそう。評価が難しいのが66号で、好調時に戻ればエース級の動きになるだけに、ある意味で注目モーター。

その他2連対率上位

番号	2連対率	1着	2着	優出	優勝
16	42.5	33	21	4	2
70	41.3	29	30	4	0
35	40.9	30	22	4	2
20	39.2	29	29	3	0
38	37.8	27	21	6	0
11	37.2	26	25	2	0
27	36.5	21	29	2	0
31	36.1	20	28	3	0
23	36.0	27	23	5	1
18	35.7	28	22	3	1
58	35.6	25	22	4	1
67	35.4	27	25	3	1
39	35.3	23	26	2	0
76	35.1	32	20	3	1
56	35.0	26	15	1	0
55	34.7	23	29	3	0
72	34.5	23	27	4	0
21	34.3	22	24	2	0
24	33.3	19	25	0	0
29	32.4	24	22	3	0

水面

